

一般社団法人日本セパタクロー協会公認審判員規程

（目的）

第1条 一般社団法人日本セパタクロー協会（以下協会という）は、協会及び協会の加盟団体が主催する大会が円滑に運営されることを目的として公認審判員を置く。

（審判員の級別）

第2条 協会の公認審判員は次の級別に区分する。

- （1） A 級審判員
- （2） B 級審判員
- （3） C 級審判員

また、それぞれの正式名称を「一般社団法人セパタクロー協会公認〇級審判員」とする。

（ルール・審判委員長）

第3条 ルール・審判委員長は、協会会長が任命する。ルール・審判委員長は、国際セパタクロー連盟あるいはアジアセパタクロー連盟公認の国際審判員資格を有し、公認審判員を指揮、統括する。

（級別による役割）

第3条 公認審判員の役割は級別に以下のとおりとする。

- （1） A 級審判員
 - ・ 加盟団体主催の大会で、審判長、主審、副審、線審を行うことができる。
 - ・ 協会主催の大会で、審判長、主審、副審、線審を行うことができる。
 - ・ 国際審判員の資格もしくは受験資格を有する。
 - ・ B 級・C 級認定講習の講師となる資格を持つ。
- （2） B 級審判員
 - ・ 加盟団体主催の大会で、審判長、主審、副審、線審を行うことができる。
 - ・ 協会主催の大会で、主審、副審、線審を行うことができる。
- （3） C 級審判員
 - ・ 加盟団体主催の大会で、主審、副審、線審を行うことができる。
 - ・ 協会主催の大会で、主審、副審、線審を行うことができる。

（資格の認定）

第4条 公認審判員の認定は第7条の条件に該当する者について、以下のとおり行う。

- （1） A 級審判員
 - A 級審判員養成のための認定講習を一定時間受けたのち、協会主催大会にお

いて審判員を務めた者について、協会のルール・審判委員会が資質・技量を審査し、合格基準に達していると認めた者を協会の会長が認定する。

(2) B 級審判員

B 級審判員養成のための認定講習を一定時間受けたのち、協会主催大会において審判員を務めた者について、協会のルール・審判委員会が資質・技量を審査し、合格基準に達していると認めた者を協会の会長が認定する。

(3) C 級審判員

C 級審判員養成のための認定講習を一定時間受けたのち、協会主催大会において審判員を務めた者について、協会のルール・審判委員会が資質・技量を審査し、合格基準に達していると認めた者を協会の会長が認定する。

(認定講習・認定講習料)

第5条 各級別の認定講習の内容は、ルール・審判委員会が別途定めたものに従う。また、認定講習料は級別に以下のとおりとする。

- (1) A 級認定講習・・・5000円
- (2) B 級認定講習・・・3000円
- (3) C 級認定講習・・・1000円

(資格条件)

第6条 各級別の認定講習を受ける資格条件は以下のとおりとする。

(1) A 級審判員

- ・ 認定講習を受ける時点で協会へ登録されている B 級審判員であること
- ・ B 級審判員として、協会主催の複数の大会で主審を務めた実績があること
- ・ 特例として、本規程が施行される以前に国際審判員の資格を取得し、国際協会主催の国際大会で審判員を務めた一定の実績がある者は、B 級審判員であることの資格条件を免除する

(2) B 級審判員

- ・ 認定講習を受ける時点で協会へ登録されている C 級審判員であること
- ・ C 級審判員として、協会主催の複数の大会で主審を務めた実績があること

(3) C 級審判員

- ・ 認定講習を受ける時点で協会へ登録されている一般会員であること。
- ・ 加盟団体主催、協会主催ともに過去の大会参加実績は問わない

(登録)

第7条 公認審判員として認定を受けた者は協会事務局の審判員名簿に登録される。最初の登録時に登録費等の費用は発生しない。

(登録の更新)

第8条 公認審判員としての資格を維持するためには、年ごとに更新申請する必要がある。審判員名簿に登録されている公認審判員には年度初めの前後に更新手続きの書類が送付される。更新料は各級とも一律 1000 円とする。

(大会における日当)

第9条 大会で審判員を務める公認審判員は、各大会実行委員会が大会ごとに定めるとおりの日当を受け取ることができる。

(認定の取り消し)

第10条 公認審判員としての適性を欠く行為が認められたものについては、ルール・審判委員会の判断により、その認定を取り消す場合がある。

(国際審判員)

第11条 国際セパタクロー連盟(以下、「ISTAF」という)あるいはアジアセパタクロー連盟(以下、「ASTAF」という)より、国際大会への帯同審判員派遣要請があった場合、国際審判員有資格者からルール・審判委員会が選考し、協会の会長の了承を得て派遣する。国際審判員の資格を有していないが、公認審判員として一定の実績があり、国際協会の了承を得られた場合、トレーニー(訓練生)として国際大会に派遣することができる。国際審判員資格の受験機会に関する連絡があった場合には、A級審判員として一定期間、協会主催の大会で主審等の経験を積んだ者の中からルール・審判委員会がそれぞれ ISTAF あるいは ASTAF の定める水準に適合すると思われる者を受験参加者として推薦する。

(抛出審判員)

第12条 本規程が施行される時点での協会および加盟団体による主催大会の実情に鑑み、協会発足時より慣例的に行われてきた、競技参加選手による他レグ試合の審判持ち回りについて、それぞれの大会実行委員会にその運用方法の権限があるものとする。この場合に審判を担当する競技参加者を抛出審判員と呼び、公認審判員と区別するものとする。

(本規程の運用)

第13条 第12条と関連し、加盟団体が主催する大会において、該当者不在や人員不足などにより規程に従った大会運営が可能でない場合は、当該の大会実行委員会は、協会事務局、ルール・審判委員会、大会運営委員会の助言を受け、円滑な大会運営が可能となるための代替措置を取ることができる。

附 則

本規程は、令和2年12月1日から施行する。